

図書館だより

Library News No.55

Nara National College of Technology

2002年6月 奈良工業高等専門学校図書館発行



41 青山 瑠美さん

目 次

巻頭言「作文すること」.....	2	学術情報の検索について	10
新任教官からのメッセージ	3	学生会 図書委員会の広場	12
卒業生からのメッセージ	4	本年度 重点目標決定	13
多読表彰について	8	図書館利用状況・統計等	14
上田太平文庫について	9	最近の書棚から	15

教職生活40年の間、仕事柄、好むと好まざるとにかかわらず学生の卒業論文や学位論文の作成に付き合ってきました。また、自分でも論文や解説などを書く機会が数多くありました。現在でも種々の報告書や研究申請書などの作成に関わっていますので、さまざまな文章に目を通します。しかし、個人差はあるものの、自分も含めて概して理系の人間は文章を書くのが不得手で、かなりおっくうがっているような気がします。私の経験から本校の学生諸君が、将来このような苦勞を味あわないように、常日頃から、作文に慣れ親しんでもらい、豊かな表現力を養い、文章によるプレゼンテーションの能力を高めてもらいたいという気持ちからこの小文を書いています。

では、理系人間がよい作文、論文が書けるようになるにはどうすればよいか？作文に対する苦手意識を克服するにはどうすれば良いか？この問題の背景には、本を読む習慣がない、作文の機会が少なく訓練ができていない、技術的な発想・スキルは豊かだが、それを表現する論理的思考は不得手、などの要因が考えられます。

私は学生が論文を書く前には、名著「理科系の作文技術」(木下是雄著 中公新書1981年初版)を手元に置いて一読するようにと指導してきました。理科系の文章は、人の心の動きや人の心を打つ事象を流れるような文章で綴る文芸作品とは異なり、客観的事実をデータに基づいて正確に情報を伝え、筋道を立てて意見を述べる文章とするところが大きな違いです。英語で論文を書くときには、さらに - 層、この論理性が要求されます。日本ではこの辺りの教育がほとんどされていませんが、この本はこの問題を取り上げ、それらに対して的確に答え、若い理系の学生に作文技術に対する指針を与えてくれています。

文章の組み立てでは当然、起承転結が大切ですが、洪水のごとく文書が溢れている最近では、重点先行主義が主流になってきています。新聞記事が典型的な例で、見出しとそれに続く数行の書き出しによってその記事を読む、読まないの判断を私達は行っています。これをレポート、卒業研究、論文作成などに当てはめると、まず、タイトルがもっとも大切であることがわかります。さらに、書き出しのわずか数行の文章で研究の目的・意義、内容、結論までを簡潔かつ正確に読む人に伝える必要があるのです。実は、これは大変難しいことです。

「理科系の作文技術」では、この難題に対する示唆に富む答えが述べられています。読書と作文は表裏一体で、書物や新聞などのよい文章を意識して読む、メモをとる、文章は短くし、パラグラフは多くする、表現法・記述法をデータベース化するなど、ごく基本的な作業が大切であると指摘しています。また、文章によるプレゼンテーションが将来にわたって重要であることを述べ、とにかく練習をすることの必要性を説いています。

本校でも毎年、作文の表彰制度があります。今年はずいぶん、作文が不得手と思ってはじめてから参加する気のない学生が一人でも多く発憤して読書感想文コンクールに参加し、一編の作文を書き上げることで、書くということに自信をつけてほしいと願っています。

新任教官から一言

未知との遭遇

電気工学科 大谷 真弘

学生として奈良高専で過ごした5年間、私は様々な機会に本学図書館のお世話になりました。今回、この「図書館だより」にメッセージを寄せさせて頂くにあたり、図書館について改めて考えさせて頂きました。その結果、私は図書館の魅力を半分も活かしていなかったということに気がされました。

学生するとき、私は実験のレポートを作成するために資料を探したり、授業の課題を解くために参考書を探したり、そしてテスト勉強をしたりするために図書館を利用していました。しかし、読書をするために本を借りたことはほとんどありませんでした。つまり、自分の専攻した分野に関する専門書しか利用していなかったのです。このような傾向は大学へ進学してからも変わりませんでした。図書館には、専門書だけでなく様々な本があります。また、専門書についても幅広い分野に渡って揃っています。それらの本には、自分の知らない知識や経験がたっぷり詰まっているはずです。すぐ手の届くところにあるにも関わらず、私はそれらの前を素通りしていたかと思うと、我ながら残念でなりません。すぐそばに当たり前にあるものほど、その存在の大切さを感じ難いと言われますが、私にとって図書館はまさにそういう存在であったのです。皆さんが、もし、ここまでを読んでハッとしたならば、図書館へ行き、今まで見向きもしなかった書棚に近寄ってみてはいかがでしょうか？そこには、未知なる世界が広がって

いるはずです。

また、図書館にはたくさんの本が集まるのと同様にたくさんの人も集まります。その中には、図書館へ行くことがなければ、すれ違うこともなかったであろう人もたくさん含まれると思います。本を通して、そのような人と出会い、そして交流できることも図書館の魅力だと思います。人との出会いは、新たな本に出会うことと同様に皆さんにとって大切なことだと思います。クラスやクラブ活動などと同様に、図書館においても様々な人との交流を試みてはいかがでしょうか(もちろん、マナーはしっかり守ってください。)？そのような出会いも皆さんにとっての未知なる世界へ繋がっているはずです。

最後に一つお願いです。図書館にあるたくさんの本は、在学している皆さんだけでなく、将来、奈良高専に入学してくる皆さんの後輩も利用するものです。ですから、できるだけ大切に扱ってあげてください。よろしくお願いします。



卒業生からのメッセージ

図書館での思い出

JR西日本 洞田 眞 紀子
(機械工学科)

私の高専生活での図書館の思い出は人に誇れるものでもないなあ...とってしまいます。

高専に入学し、私が覚えている限りの最初の思い出は、偶然本棚である本に「呼ばれ」たことです。確かその当時映画化されていた「リング」だったと思います。あのころこのCMが流れるだけで急いでチャンネルを変えてしまうほどの恐ろしい私が、本とはいえ手に取ることになるとは思ってもありませんでした。

それから今までの5年までの間、聞いたことのある題名の本やその時気になった本を手当たり次第読んでいきました。そのとき私が感じたことは、「呼ばれている本」があることです。なんとなく活字が読みたくなったとき、図書館に行き背より高い本棚に挟まれながら表紙を眺めていると、今まで気にならなかったのに急に読みたくなる本が出てきます。これでこの日の収穫は終わり...とすんなり借りられるといいのですが、こういうときに限ってまた別の本に「呼ばれ」たりします。私は基本的に一回借りる毎に一冊しか借りないので(2冊借りても読み切れない)どっちを借りようかすごく迷ってしまいます。「これは今度!」とキープしたつもりでも次にきたら借りられていたり、下巻だけだったりしてなかなかもどかしかったりしましたが、またそれも楽しかった思い出になっています。

みなさんもレポート用の本を借りに行くだけでなく、左手にある本棚をのぞいてみたらどうでしょうか?何か「呼ばれる」本があるかもしれないですよ。

今までの読書経験をふまえて

富士電気工事 新 将司
(電気工学科)

今回、クラスの中で貸し出し冊数が多い方だということで原稿を依頼されたので、今まで僕が本を読んできた中で感じたことを書いてみたいと思います。それで今までなにを感じていたかを考えてみると、本の読み方について二つほど感じるがありました。

まず一つ目としては、いろんな種類の本を読む方がよいということです。やはり、日頃よく読む本のジャンルからはなれて、違うジャンルの本を読むことは、いつもの読書からは得られない新鮮なおもしろさを得ることが出来ると思いますし、また、物事を多角的に理解するために必要なことだと思います。

そして二つ目として、一度読んでみて感動した本や、おもしろかった本を繰り返し繰り返し読む方がよいということです。これをするによって、一度目では気づかなかったことに気づくことができると思いますし、また、自分の感情や知識の変化によってそのとき感じたことと、今感じるものの違いを楽しむことが出来ると思うからです。

というわけで、僕の読書経験をふまえて、今まで感じたことを書かせていただきました。

最後に本をほとんど読まない人に一言添えたいと思います。今まで何度もいわれてきてうんざりしてるかと思いますが、本は読んだ方がいいです。本を読むことで頭でいろんな疑似体験ができた、いろんな知識が得られると思います。なかなか日頃の生活が忙しくて時間がないとは思いますが、一日15分の読書からでも本を読まない方は初めてはいかがでしょうか。

読書の方法

大阪大学 北川 信一郎
(電子制御工学科)

僕は読書が非常に苦手です。読書をする時その本に出てくる風景や場面を思い浮かべたり登場人物の立場に立って考えたり、そのような読書がなかなかできません。その上、高専生活で読んだ本のほとんどは講義中に机の下に隠してという感じでした。一般教科の歴史や国語といった講義がどうしても好きになれず、寝るくらいなら本でも読むか、という風な読書をしていました。そんな読書が身につくわけも無く自分自身が本によって成長したという自覚はありません。レポートや卒業論文を書くために専門書を読むことはありましたが、専門書に書いてあることは難解で自分の知識では書いてあることが理解できないという始末でした。

本を読むと情緒豊かになる、人格形成に役立つなどいろいろなメリットが上げられることが多々ありますが、残念ながら僕には当てはまりませんでした。本を読む際の自分の力が足りず、本を読む時に書いてあることだけを眺める読書になってしまっていました。読んだ本に感動したり、琴線にふれたりといったこともありませんでした。本を読む以前に僕の感性が十分ではなかったようです。本を考えながら読むことができれば、もう少しましな読書ができたのかもしれない。

高専は5年間という高校よりも長い期間を比較的自由に過ごすことができます。その中で授業以外の場において自分の何を伸ばすのかは非常に重要なことだと今になって思います。専門の技術・知識だけでなく、それらを将来使っていくための自分の内面をどのようにして育てるのか、その方法は読書である人もおられるでしょうし、そうでない人もまたおられるはずです。もし自分を育てる方法が読書であると思うなら、高専生活五年間を無駄にせず様々な種類の本を読み、良い読書の方法を見つけてください。それはきっと卒業後も皆さんの大きな財産になると思います。

紙の本が好き

豊橋技術科学大学 村田 祐一
(電子制御工学科)

私は本が好きです。私が高専に入った理由の一つにも、図書が充実しているというものがあつたと思います。動機はカウンターのバーコードリーダーを触ってみたかったからという単純なものでしたが、図書委員会にも入り、結局5年間続けてしまいました。

高専の図書館には、小説、専門書を含め、非常にたくさんの本があります。一時期、それらの本を片っ端から読みふけていた時期もありました。今はかなり読む量も減ってきましたが、それでも1週間に10冊くらい読んでいます。私は、本に書かれてある内容だけでなく、本の紙の感触とか、ページをめくる音も、本を読む楽しさの一つだと思います。新しい本を初めて読むときにはインクの匂いが新鮮さを醸し出し、古書を手にとれば、紙独特の古びた匂いがその本の歴史を感じさせます。

また、ちょっとした空き時間にぱらぱらとページをめくるのも、徹夜で物語りにのめり込めるのも、自分の思うように読めるのが、紙の本ならではの良さだと思います。昔どこかで、本は読まれる度に自ら良くなろうとし、深みを増していく。という言葉聞いたのですが、今でも心に深く残っている、好きな言葉の一つです。



今現在、電子ブックが注目されつつあります。かさばらない、探すのが楽、大量生産が簡単などという利点から、少しずつですが広まってきています。しかし、画面に向かって読まなければならない、手に持てないというのは辛いです。また、読むためには機械の電源を入れ、データを読み込まなければならないと言うのも、本の手軽さには劣ります。データ化された本は古びたりせず、いつまでも作られた時のままの姿を保ちつづけるでしょう。しかし、それ故に、古本屋で探していた本に出会えた時の、懐かしいような、少し物悲しいような、あの不思議な気分は味わえないのではないのでしょうか。

かさ張らず何冊も持ち歩ける電子ブックも良いですが、私はやっぱり紙の本が好きです。

図書館と私

京セラミタ 轡 華代子
(情報工学科)

高専生活において、図書館とその職員の方々には大変お世話になり、また貴重な思い出があります。レポート作成のため、ここぞとばかり図書を借りて、ヒイヒイ言いながら完成させていた頃のこと今となっては良い(?)思い出です。ブックハンティングでも色々な本を選ばせてもらいました。

それらの思い出の中で、やはり一番というべきことは、読書啓蒙のポスターや「図書だより」の表紙絵を描かせて頂いたことです。皆さんの目に触れたこともしばしばあったことでしょう。図書委員であり、また美術部に所属していたという事がきっかけになったと思います。図書だよりのときには、「今度は何を描こうかな～」と、毎回楽しみながら描いていました。一応、発行される季節を年頭に置きながら描くのですが、月がずれて季節と全く合ってなかったのもありましたね。(今更ながらすみませんでした) こうして自分の描いた作品が、冊子として表れるのを見ると、何だか恥ずかしいような嬉しいような気分になります。先生や友人に冊子のことで声をかけられた時

は、思わず照れ笑いしていました。けれど、自分の得意とする分野で、少しでも役に立てられたということは本当に嬉しいことであり、そして依頼を通して職員の方々と親しくなれたことも貴重な思い出です。卒業以後は、私もそのような依頼を担当することも叶いませんが、絵心のある方・興味のある方は、どうぞ図書館のために一筆ふるってみてはいかがでしょうか?きっと良い思い出・体験になることでしょう。



読書のススメ

奈良女子大 久保 陽子
(物質科学工学科)

皆さんは読書が好きだろうか、どのくらいのペースで読書しているだろうか。私はかなり読書が好きなので、時間を見つけては読んでいる。日頃は小説やエッセイを読むことが多い。今まで出会った全ての素晴らしい本は今も心の中に残っており、時々その内容や文章中の言葉を思い出す。本には多くの人達の生き方や知恵、知識が詰まっており、悩んだ時や落ち込んだ時、解決の糸口になってくれる。だから私は沢山の書と出会える図書館が好きである。特にこの学校の図書館は雰囲気もよく、読み物が充実しているので、卒業しても時々来ようと思っている。

さてここで、最近印象深かった文学作品2冊とエッセイ2冊を紹介しよう。まず、ヘミングウェイの「老人と海」(新潮文庫)。著者であるヘミングウェイは「日はまた昇る」などで有名な米国文学者である。この本は、老いた漁師の4日間に渡る大自然との死闘を、徹底した外面描写で綴ったもので、生きることの厳しさ、人間の勇気を描いた作品である。百聞は一見にしかず、一度読んでみてほしい。2冊目は、加藤哲太郎の「私は貝になりたい」(春秋社)。題名だけ聞いても内容が連想できないが、戦争の本である。この本の中には、

教科書にない、「日本の敗戦のもう一つの真実」が存在する。読めば、戦争は犯罪であるという言葉の真意を理解できる筈だ。エッセイの一冊目は、藤原紀香の「藤原主義」(幻冬舎)。一時話題になったので知っている人も多いと思うが、まだの人はぜひ読んでほしい。特に女性は、藤原紀香の積極的で「美しい」生き方から学ぶことも多いだろう。2冊目は、井形慶子の「お金とモノから開放されるイギリスの知恵」(大和書房)。常に豊かな心で生活するイギリス人の生き方に驚き、気持ちに何らかの変化をもたらしてくれる本である。

私の最近のお気に入りをお気に入り4冊紹介したわけだが、5年間という長い高専生活、時々図書館に、レポートの為に読書の為に足を運んでみよう。そして、できるだけ多くのお気に入りを見つけたい。きっと新しい世界が見え、豊かな気持ちになれることだろう。

本から学ぶこと

奈良高専専攻科 藤澤 明子
(物質科学工学科)

私は、小さい頃から本を読むのが好きだった。本の種類は問わず興味を引くものは何でも読みたいと思う。そんな中であらゆる情報がぎっしりと詰まった図書館は色々なことを教えてくれた。私は、この空間で1日中好きな本を読んでゆっくりと流れる時を感じていたいと思う。このように思わせることはじつに魅力的だ。

実際、私は図書館で実験レポートの考察について調べたり、テスト前の自習の場として利用したり、さらに卒業研究が始まってからは、専門分野について調べたりと勉強面で大いに有効利用できた。その他にも、時間が空いているときには本を読みに行ったり、さらには無性に人恋しくなって誰かと話をしたくてたまらなくなった時に、話し相手を求め駆け寄ったりと必要不可欠な場所であった。

あふれんばかりの本の中で、最近幼少の頃好きだった絵本から得たことがある。この年代になって絵本(?)と思われるかも知れないが、絵本に

は大きな力があるのをご存じだろうか?その力とは素直な気持ちを思い出させてくれることである。めくるめく日々の中で、小さな感動や驚きを感覚が麻痺したかのように見過ごしていたことはないだろうか?そんな中、忘れがちでささやかな感動や驚きに気付かせる素直さを絵本によって思いださすことができた。また、絵本に限らず本の力は、私に元気や前向きであることの大切さを教えてくれる。うまくいくこともあればそうでない時もある。やりたくなくてもやらなければならないこともある。その時こそいかに自分自身が努力し、それを乗り越えるかが問題であって、その問題点で本は頑張るためのアドバイスを与えてくれるのだ。

私は本を通して様々なことを学んだ。本から与えられた力で、さらに私自身が強く、より成長できるようにこれからも多くの本と出会いたいと思う。



お知らせ

夏季休業中(7月20日~8月31日)の開館時間等は次のようになります。

開館時間	平日 8時30分~17時 土・日曜日 休館
閉館日	8月5日(月)~8月16日(金) 館内整理等のため
長期貸出	7月2日(火)~9月3日(火)
貸出冊数	6冊 7月9日(火)より実施

平成13年度 多読表彰について

多読表彰とは、図書館の利用を活発化させたいと強く願われた、前図書館長の中和田先生が発案されたもので、一年間の一人当たり貸出冊数の多い順に5クラス表彰を受けるというものです。図書館の掲示板のクラス別貸出冊数の統計グラフを見て刺激を受けた人もたくさんいたことでしょう。

今年は下の表の5クラスが選ばれ、4月26日昼の休憩時に校長室で表彰を受けました。5クラス中、4クラスまでが高学年、専攻科クラスです。低学年でただ一つ情報工学科1年（現2年）が健闘です。

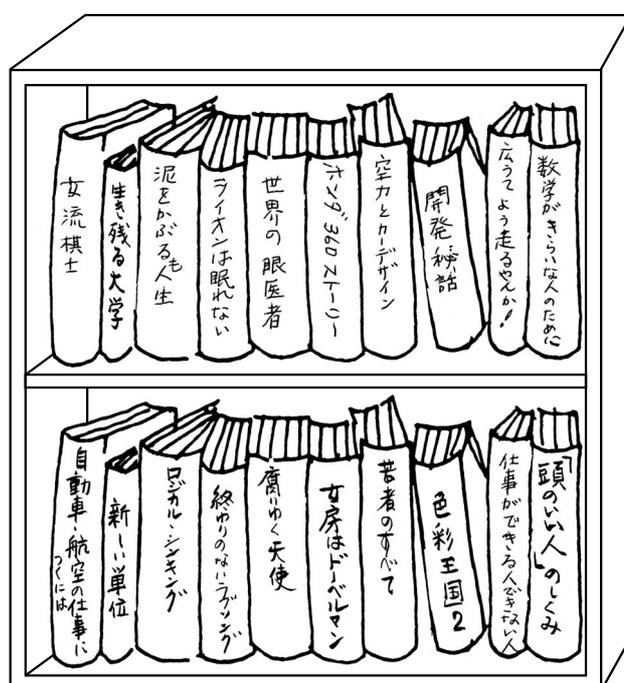
先輩のメッセージにも多く書かれているように図書館を上手に活用することが、学生生活を有意義たらしめる大きな要因となるのは間違いのない

ことのように。比較的時間に余裕のある1,2年生は、積極的に図書館に足を運んで、図書館に親しみ、読書に学習に有効活用してほしいと思います。

表彰された5クラスには、副賞としてクラスが希望する下の本などの購入が認められました。

(他にもたくさんあります)

購入希望リスト



第6回 多読表彰学級表

順位	学級 (2001年度)	一人あたり 貸出冊数
1位	機械工学科 4年	29.4冊
2位	機械工学科 5年	26.3冊
3位	情報工学科 1年	22.2冊
4位	電気工学科 4年	20.1冊
5位	機械制御専攻 1年	19.5冊



上田太平文庫について

拡張なった一階閲覧室に【上田太平文庫】と名付けられたコーナーが出来ているのを皆さんはお気づきでしょうか。この文庫は本校を深く愛しつつ亡くなられた卒業生の故・上田太平氏のご両親から寄せられた寄付金によって創設されたものです。

創設に際しては、故人の遺志やご両親の篤い志を受け、図書館委員会で豊かな教養と科学技術に関する深い洞察力や創造力を育てるという指針のもとに選書されることになりました。

既に以下のシリーズが整然と整理され、皆さんに読まれるのを待っています。いずれも各分野での名著として評価の高いものです。



上田太平文庫コーナー

科学、技術

科学年表 - 知の5000年史 -
アイザック・アシモフの科学と発見の年表
「マクミラン」世界科学史百科図鑑
岩波講座 科学/技術と人間
双書 科学/技術のゆくえ
サイエンス・マスターズ
文化財を探る科学の眼
シ・トン動物誌

文学

世界100物語
明治の文学
編年体大正文学全集
昭和文学全集
新・ちくま文学の森
大人の本棚
愛蔵版詩集シリーズ
日本ジュニア文学名作全集
詩人が贈る絵本

哲学、思想、伝記

Century books 人と思想
人生の知恵
伝記 世界を変えた人々
人間の記録
世界を変えた6人の企業家

芸術、文化

世界美術大全集 西洋編
世界美術大全集 東洋編
カラー版 芸術史シリーズ

その他

世界の地理
日本の歴史
こころの科学セレクション
花卉園芸大百科

五年生と専攻科生のための 学術情報の検索について

図書館員 清水美代

新学期を迎え早2ヶ月が過ぎましたが、五年生・専攻科生の皆さん、研究テーマはもう決まりましたでしょうか。今回、「図書館だより」を通じて、五年生・専攻科生の皆さんに、情報検索についてご案内することになりました。

研究テーマが決まり、そのテーマに沿った資料や情報を収集する必要が生じた時、どのようにすれば効率よく収集することができるのでしょうか。まず、資料や文献を収集するには、検索により文献やその所在を明らかにする必要があります。文献の検索については、いろいろな方法がありますが、本校図書館が提供できる代表的なものを以下に紹介します。(新外国雑誌データベースと国立情報学研究所の機関別定額制システムは、共に本校内の端末からのみ検索が可能です。図書館のホームページからご利用ください。)

図書や雑誌・論文の検索について

- ・ 図書や雑誌の有無、所蔵機関を検索する場合
- ・ 著者名やキーワードにより論文を検索する場合

の2通りがあります。また、全文を画面上で見られるものと、目次だけしか見られないものがあり、前者を電子ジャーナル(オンラインジャーナル)といいます。こうした検索により見つかった資料や論文が本校で入手できない場合は、文献複写・現物貸借等の方法により、入手可能となります。

1. Swets社(オランダ)

新外国雑誌目次データベース(SwetScan)

1995年以降の外国雑誌約18,000タイトルの目次を見ることができます。収録分野は、理・工・農・医・生・人文です。また、E-mailを利用したSDIサービス(雑誌名やキーワードを検索式として登録しておき、最新号が発行されたり、登録したキーワードを含む論文が掲載されるとそのつどメールで知らせてくれる)が可能、また求めていた論文が見つかった時すぐ複写依頼もできます。まさに文献収集向きのデータベースといえましょう。

2. 国立情報学研究所(NII)

Webcat

雑誌の所蔵館を検索します。(主に国公立大学図書館や公共図書館等)

NACSIC-IR(機関別定額制)

著者名や所属機関・キーワード・標題等により、文献を検索します。新外国雑誌目次データベースが外国語であるのに対し、NACSIC-IRは日本語のデータベースであるため利用しやすいかと思います。特にお勧めなのは、国立国会図書館作成の雑誌記事索引データベースです。これは国内の主要な学術雑誌に掲載された学術文献の索引情報で、和文誌11,743誌、国内刊行欧文誌135誌が収録されています。ここで検索した文献は、図書館ホームページの文献複写依頼(ILL)から申し込み、入手することができます。(複写は有料になります)

NACSIS-ELS(機関別定額制)

電子ジャーナルです。特定の学協会発行の会誌の全文を見ることができます。論文

名・著者名または雑誌名から検索して論文や記事を見つけます。見つかったら「表示」や「印刷」をクリックすることにより全文を入手できます。

Oxford University Press刊行電子ジャーナル

電子ジャーナル全タイトル（約170誌）の試験提供。生命科学，医学といった自然科学分野の他，経済学，法学などの人文科学分野の雑誌も含まれます。

3．科学技術振興事業団（JST）

JICST科学技術文献ファイル

科学技術全分野に関する世界60数カ国の雑誌・技術レポート等の優れた文献を収録しています。また外国語の文献が日本語で検索でき、全ての文献に日本語の抄録がついています。著者名やキーワードから、1975年以降の論文について検索します。この検索で見つかった文献は、複写依頼して入手することができます。検索・複写ともに有料です。また、検索は図書館での代行検索のみです。

複写依頼について

新外国雑誌目次データベース以外の文献については、図書館ホームページの中にある文献複写依頼（ILL）から申し込んでください。その際、必ず指導教官の複写許可をもらってください。（入手まで3日から1週間くらいかかります。）

以上の機能を上手に使いこなして、これからの学習に研究に役立ててくださることを願っています。利用法などわからないことがありましたら、気軽に声を掛けて下さい。

この夏は、恩師に、旧友に暑中見舞いを出そう！

この間、西大寺駅で、向かい側のホームをぼんやりと眺めていて驚きました。電車を待ちながら、携帯電話をのぞき込んでいる人がなんと多いんでしょう。本を読んでいる人もまばらにいますが、圧倒的に携帯電話に夢中派です。“アケオメ”に代表されるようなメール語で友人達とコミュニケーションを図っているのでしょうか。

昨今、「声に出して読みたい日本語」や「美しい日本語のすすめ」「常識として知っておきたい日本語」などという日本語の本がベスト・セラーになっているのは、携帯電話の普及と大きな関係がありそうです。

巻頭言で校長も述べられていますが、作文の重要性は、学生時代はもちろんのこと社会人になればなお身にしみて感じることでしょう。6月に入って、就職内定の学生たちが、企業にお礼状を出さなければと、手紙の書き方の本を求めて図書館にやってきます。今までになく真剣です。手紙を書く中で、文章を書くことの大切さ、常識の必要性などを早速実感したことでしょう。

間もなく夏休みです。この夏はメールではなく、貴方の肉筆で、メール語でなく、貴方自身のことばで恩師や旧友に暑中見舞いでも出してみませんか！きっと何かが始まる・・・と思いますよ。



学生会 図書委員会の広場

あなたにとっての図書館は？

4C 辰巳 哲馬

皆さん、はじめまして。図書委員長の辰巳です。今回私の図書館についての考えについて書かせて頂きます。

この奈良高専に入学し、早4年。私が初めて図書館に来た時はその充実ぶり、特に専門書の多さには驚かされました。そして、それ以来部活が終わってからは必ずといっていいほど図書館へ行き、閉館時間まで居座り続けています。毎日来る図書館なのに、その都度何か新しい発見がある、そんな印象が私にはあります。

さて、皆さんにとっての図書館とはどのようなものでしょうか。おそらく、大抵の方はレポート提出前や試験前に利用されていると思います。特に試験直前は実に盛況です。そして試験終了日の昼の図書館は嵐が去った跡のように誰もなくなります。

ところで図書館を利用して、何か不備を感じることはなかったでしょうか？例えば、読みたい本がないだとか、レポートの課題に適した専門書がなかったりして知りたい情報が得られない、そんな事があったかもしれません。しかし、これに対して、図書館にはブックハンティングと呼ばれるものがあります。各クラスの要望に対し、図書委員がそれをまとめ、希望の本を購入しに行くものです。ぜひともこの機会を利用して、皆さんの手で図書館をより良いものにして欲しいと思います。

やっとの思いで

4S 大井 清寛

どうも。今年度図書副委員長に就任した大井と申します。4年間の立候補の末、やっとの思いで図書委員になれたと思えば、いきなり副委員長になんてなっていました。

そんな感じなので右も左もわからない状態ですが、なるべく努力していきますので皆様もご協力していただければと思う次第です。

抱負を書いてくれという事なのですが、図書委員になれた事自体が初めてなので、取りあえず、自分の出来ることをなるべくやれるだけやってみようと思います。特に、ブック・ハンティングは非常に楽しみにしています。

しかし、自分だけでは今、どのような本が必要かわかりません。やはり、自分色に片寄ってしまいます。そうならないためにも皆様のご要望、ご意見をお待ちしております。

読みたい本、抜けている本を見つけて購入しよう！

3S 小林 幹浩

初めまして、図書委員の副委員長になりました小林です。1年から図書委員をやってました。まず私が図書委員会に入った理由は、自分の趣味の本をたくさん読みたい！ということからでした。そしてブックハンティングではたくさん小説(ファンタジー系)などを仕入れることができました。やっていきたいことですが、これを期に、図書館にある本が少しでも探しやすいように本の整理の手伝いをしたり、抜けている本を少しでも多く足していこうと思います。読みたい本とかあれば言って下さい。できる限り反映していきますので。みんなが少しでも多く図書館に来やすいように頑張るんでよろしくお祈りします。



2002年度学生会図書委員会

	機 械	電 気	電子制御	情 報	物質科学
1 学年	渡辺裕史	廣田 傑	藤本森峰	橋本一輝	井出浩一
2 学年	谷合龍一	嶋岡俊朗	古田耕平	中野晃司	上辻 広
3 学年	浅野真幸	宮崎敦司	小林幹浩	上山謙太郎	藤田直樹
4 学年	勝井祐貴	谷村朋恵	大井清寛	佐藤達也	辰巳哲馬
5 学年	山野井祐太	新井 俊	吉田博史	中坊典史	西村真一

委員長、 副委員長

今年度、図書館委員会重点目標決定

- 自ら学び、自ら考えるために -

図書館長 宮本止戈雄

生活に追われてあくせく働いていた昔よりも生活水準が向上したいま、人々は生き甲斐を求めて自己研鑽に励むようになりました。このような一般社会人の方々の生涯教育にも貢献できるように、高専や大学でも、図書館を一般に開放し、種々の公開講座を開催するようになりました。中学、高校等は今年の4月から学校週5日制に移行するのに伴って改訂された新しい学習指導要領が実施（高校は15年度から実施）されています。これまでの知識偏重を脱して、自ら学び自ら考えて、種々の課題を解決する資質や能力を育てて「生きる力」をはぐくむことを大きな目標としています。このような、資質や能力は創造力を原資とする技術者を目指す高専の諸君にこそ最もふさわしいことではないでしょうか。意欲的に学びとっていけるような気持ちにして実践していくのは、諸君の大事な役目です。

学校としてもそのような環境を整えるのに努力しています。図書館では本年度の運営の重点目標は、当然のことではありますが、

図書館利用教育に努める。

優良図書の収集に努める。

と定めて取り組んでいます。前者は人格形成や勉学・研究において諸君が図書館を活用することの大切さを理解してもらい、さらに、どのようにすれば自分の欲しい情報を獲得できるかの活用技術を取得してもらうことです。読書感想文コンクールや多読表彰、本誌の発行などもこの目的のために行っています。後者は諸君の要望に応えるべく必要な図書を揃えることです。図書委員の諸君には代表者として、毎年書店でブックハンティングを行い諸君の眼で観て必要な図書を選んでもらっているのも、この一つです。さらに、例年にない工夫をしながら目標をやり遂げたいと思っています。

皆さんには、図書館や総合情報センターを自ら学びとる拠点として積極的に活用していただきたく思います。

2002年度図書館委員会・図書係

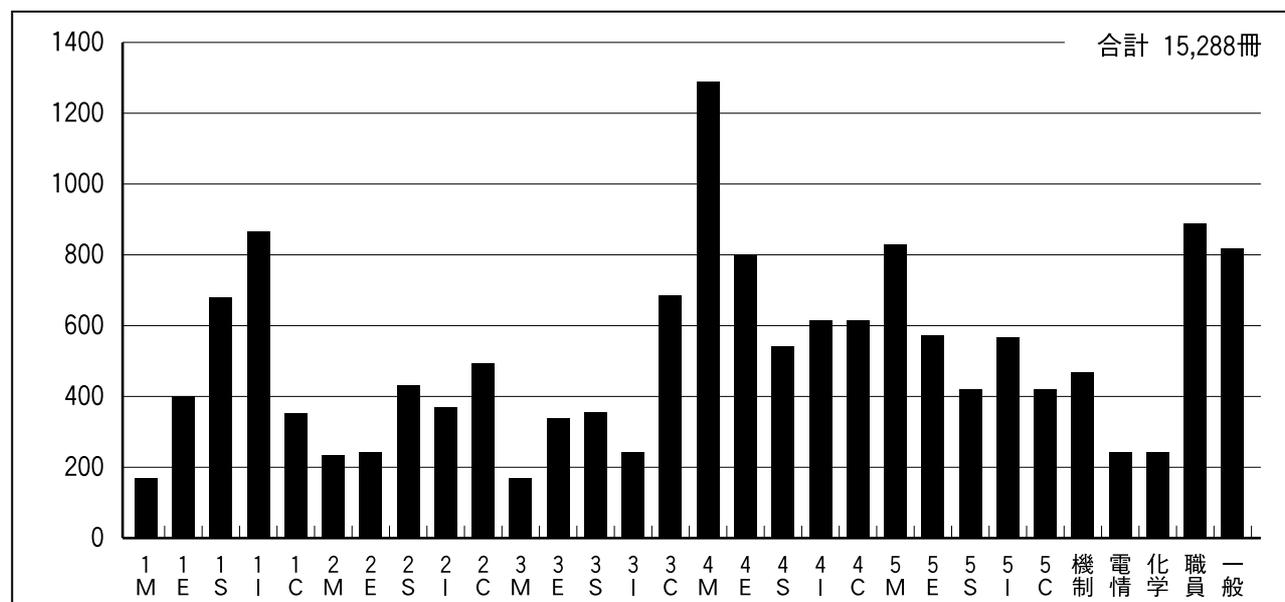
図書館長	宮本止戈雄
副館長	山内雅好
委員	福嶋克彦、荒金憲一、加納文質、中田敏夫、世古、忠、梅原 忠
幹事	織田辰男（庶務課長）
図書係	係長：小泉最弘、司書：福井洋子、清水美代、事務補佐員：松田愛子、奥島美恵子、山口雅子

図書館利用状況

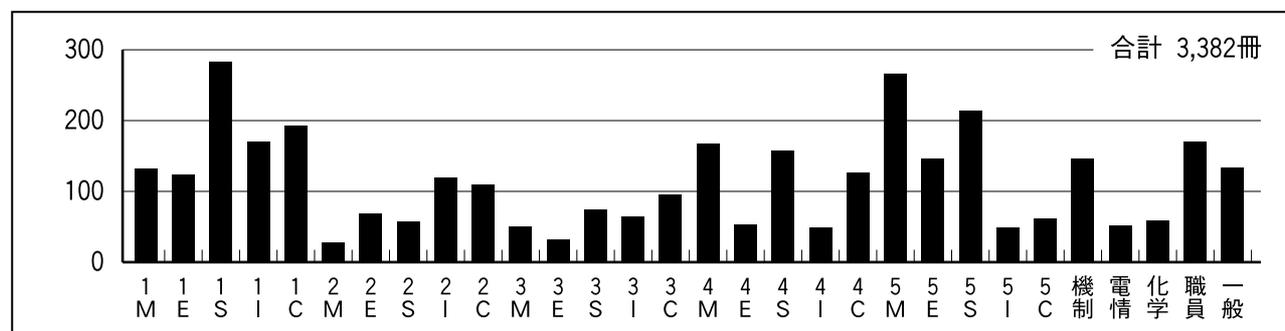
	1999年度	2000年度	2001年度		1999年度	2000年度	2001年度	
開館日数	262日	270日	265日	分類別貸出数	18,475冊	17,898冊	15,288冊	
平日	226	232	230		総記	1,453	1,824	1,249
土曜日	36	38	35		哲学	253	203	137
図書館入館者数	107,599人	192,830人	82,666人	歴史	593	402	420	
平日	100,871	88,344	78,016	社会科学	369	315	249	
土曜日	6,728	4,486	4,650	自然科学	2,945	3,143	3,060	
一日平均入館者数				技術	5,869	5,345	4,471	
平日	446人	381人	339人	産業	130	80	67	
土曜日	186	118	133	芸術	1,874	1,635	975	
文献複写依頼件数	645件	736件	633件	言語	490	760	601	
受付件数	0	2	0	文学	4,327	3,822	3,715	
図書借受冊数	0冊	10冊	2冊	未分類	172	369	344	
図書貸出冊数	18,475冊	17,898冊	15,288冊	延貸出者数	10,670人	10,159人	8,292人	
1学年	1,763	2,237	2,494	1学年	1,094	1,335	1,364	
2学年	2,954	1,110	1,742	2学年	1,761	727	998	
3学年	3,496	3,710	1,745	3学年	1,966	2,094	1,004	
4学年	4,850	4,288	3,854	4学年	2,830	2,452	2,202	
5学年	2,797	3,181	2,756	5学年	1,649	1,781	1,363	
専攻科	970	1,485	978	専攻科	515	784	483	
職員	816	924	913	職員	505	567	540	
一般	829	963	806	一般	350	419	338	

CD-ROM等の視聴覚資料も含む、ノート記入による貸出分は含んでいない。

2001年度クラス別貸出冊数



今年度（5月末現在）クラス別貸出冊数



最近の書棚から

ワールドカップがアジアにやってきて、ニュースや、新聞紙上など、サッカーの話題で持ちきりです。全く関心のない私の目や耳はそれらの話題を素通りしています。通勤途中の電車の中で高校生のおしゃべりから、少しばかりの情報を得ました。歴史と伝統のヨーロッパサッカーや、南米サッカーという言葉も初めて耳にしました。そんな人間が選んだサッカー関連本3冊です。

・日韓ワールドカップ観戦ガイド完全版 D A I-X 出版

アジアにW杯がやってきた! 出場32カ国のデータを収録するほか、日韓代表の戦い、グループリーグ全48試合の見方や見どころ、決勝トーナメント展望などを掲載した観戦ガイド。

・ベッカム すべては美しく勝つために

デイヴィッド・ベッカム著 東本貢司訳 PHP 研究所

マンチェスター・ユナイテッド命、ヴィクトリアへの愛…。挫折からイングランド代表キャプテンへ。勝つために何をなすべきか。世界的MFが語った自伝。

・ワールドカップを2002倍楽しむ事典 橋本孝幸著 小学館

選手の紹介記事、ミニサッカー用語事典、主要7カ国語ミニミニ会話辞典などが主な内容です。因みにサッカーは英語ではフットボール (football)、トルシエ監督の母国のフランス語ではフータ (foot) というそうですね。

・Michio's northern dreams 1~3 星野道夫著 PHP 研究所

1996年、カムチャッカ半島でヒグマに襲われて急逝した星野道夫さんの未発表写真と魂を揺さぶる言葉の数々。繁忙な日々で忙殺されて、最近季節の移ろいを敏感に感じ取れなくなってきたはいませんか。たまにはそっと耳を澄まして、そしてゆったりと心をくつろがせて、豊かな自然の歌を聴くのもいいものです。6.7年前ふとしたきっかけで知ってから私はずっとファンです。写真の動物たちも表情があつてとても素敵です。

・英語で日記を書いてみる - 英語力が確実にUPする -

石原真弓著 ベレ出版

英語で日記を書くことで確実に英語の力をつけることができます。そこで気軽に書き始められるよう、書くために必要な英語の文の組み立て方から基本文法までを詳しく解説。日記に使える構文、表現、実例も豊富に紹介します・・・というキャッチフレーズに惹かれて購入してもらいました。・・・でも、英語で日記などとて書けそうもありません。なんてたって、まだページを開くことすらできないんですから。こんなことでは一生英語コンプレックスから逃れられませんね。

・自然に生きて 小倉寛太郎著 新日本出版社

図書館だより51号で、情報工学科の世古先生が心に残る本として挙げられた小説「沈まぬ太陽」の主人公・恩地元のモデルと言われる著者による自伝的エッセーです。「沈まぬ太陽」は、世古先生の紹介もあってか、5冊本という大作にも関わらず本校での随分読まれました。その波瀾に富んだ人生のなかで作者何を思ったのでしょうか。軍国少年だった頃、労組運動と懲罰人事による海外勤務、自然との関わりなど、自らの歩みをユーモアたっぷりに語っています。現在労働形態の多様化で組織に属さない労働者が増えて来ています。労働組合の弱体化によって誰が笑うのかななどを考えさせられる、示唆にとんだ読み物でもあります。他にも岩波ブックレットで、辛口評論家・佐高信氏との対談集「企業と人間」という好著もあります。

・「命」「魂」「生」「声」 柳美里(ユウ ミリ)著 小学館

「命」生と死を見つめて。こんなに感動的なスキャンダルがあっただろうか。妻ある男性との恋愛、妊娠、未婚出産、そして癌闘病。十年分を一気に生きた一年間の哀しく、壮絶な私記。「魂」日々病魔に冒され、ときに幻覚にさいなまれる東由多加と、その命に寄り添う著者の約2ヶ月間にわたる壮絶な癌闘病を核とする物語。「生」死よ、私からこれ以上何を奪うつもりか…。東の癌の進行は止まらず「余命一週間」と宣告され、生後2カ月のわが子と別離した。そしてレイプ未遂事件。なぜワタシダケガコンナメニ!「命」「魂」に続く、慟哭の私記第三幕。「声」そして葬送の第四幕。生き方には共感できなくても直接ハートに訴えかけます。どの巻も迫力も満点です。著者は昭和43年神奈川県生まれ。プライバシーの侵害で訴えられたり、ノーベル賞受賞の大江健三郎にかみついたりといろいろ話題を提供してくれる人ですが、本当はナイーブで正直で不器用な人なのでしょう。実力は凄い。天下の朝日新聞も夕刊の連載小説の掲載作家に彼女を起用しました。ワールドカップを意識して日韓同時掲載中です。

・金ではなく鉄として 中坊公平著 岩波書店

森永ヒ素ミルク事件被害者弁護団長として企業責任を問い 住宅金融債権管理機構で3年間不良債権回収に辣腕を振るい、住専の債権回収に奔走し、大蔵省や銀行、闇の暴力組織を相手に闘い続け、日本経済再生と環境問題に全身で取り組む弁護士・中坊公平。虚弱で、人付き合いも下手で、劣等生であった、ぼんぼん育ちの少年がどのようにして、弱きを助け、強きを挫く、「弁護士・中坊公平」になっていったのか。「人間・中坊の原型」を生い立ちからの豊富なエピソードで語っています。



編集後記

毎年この時期の図書館だよりは、卒業生から、“在校生に贈る”と題して図書館に関わるいろいろな思い出や励ましの言葉を寄せてもらっています。皆さん、どう読まれたでしょうか。5年間の学園生活の中で、こんなにも深くそして真摯に図書館と向き合っている人たちがいたんだと、心を揺さぶられました。そして改めて、図書館に関わる者として、その責任の重さ、大きさをひしひしと感じたことでした。

お忙しい中、貴重な原稿をお寄せ下さった校長をはじめ、ご協力下さった皆様方に篤くお礼申し上げます。